

# 経営レポート 2021

音更町上下水道事業

- 水道事業  
p1-p5
- 簡易水道事業  
p6-p10
- 下水道事業  
p11-p15

令和3年11月22日

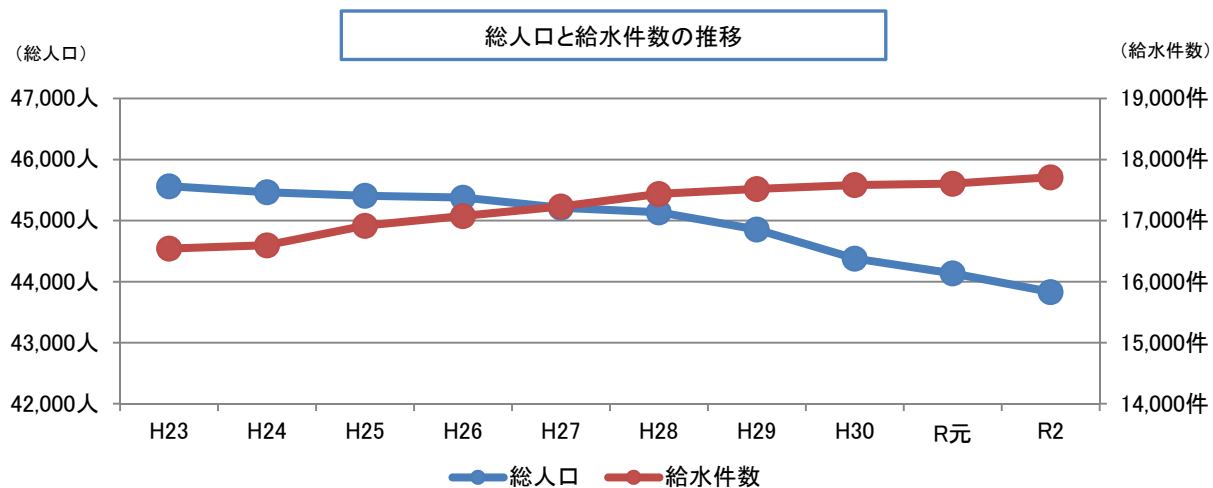
# 1 業務の概要

## 水道事業

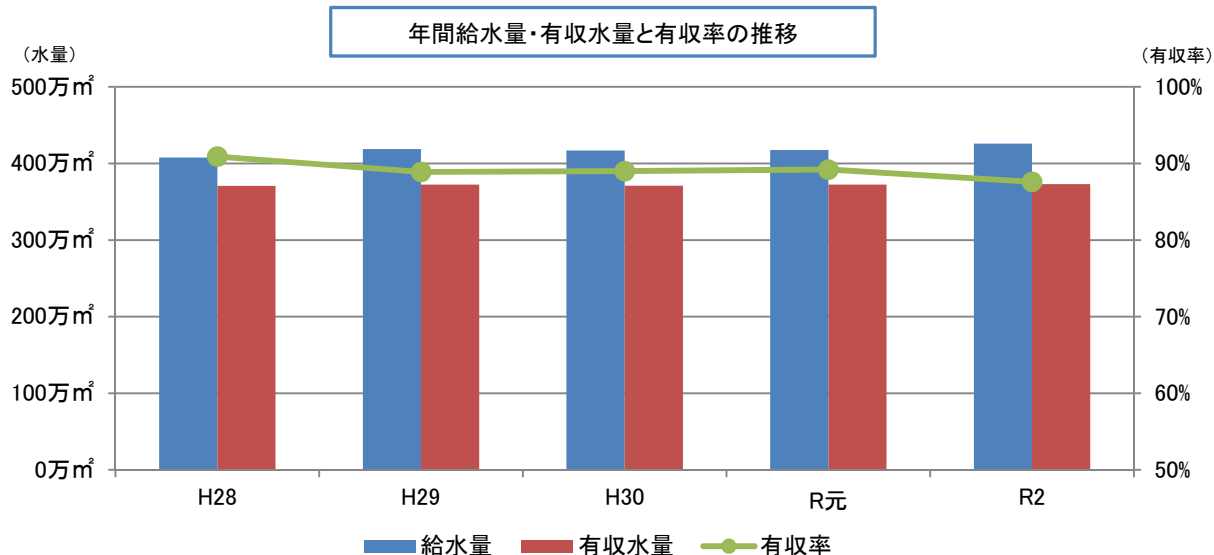
令和2年度末の給水件数は1万7,711件で、対前年度105件の増となりました。

令和2年度の年間総給水量は426万 $\text{m}^3$ で、有収水量は373万 $\text{m}^3$ でした。

給水の効率性を示す有収率は87.6%で、対前年度1.6ポイントの減となりました。



- 町の総人口は、平成22年の45,600人をピークに減少傾向にあります。核家族化により給水件数は増加しています。



- 給水量とは、浄水場から送り出された水量のことです。
- 有収水量とは、料金算定の対象となった水量のことです。
- 漏水等により損失水量が増加し、有収率は対前年度1.6ポイントの減となっています。

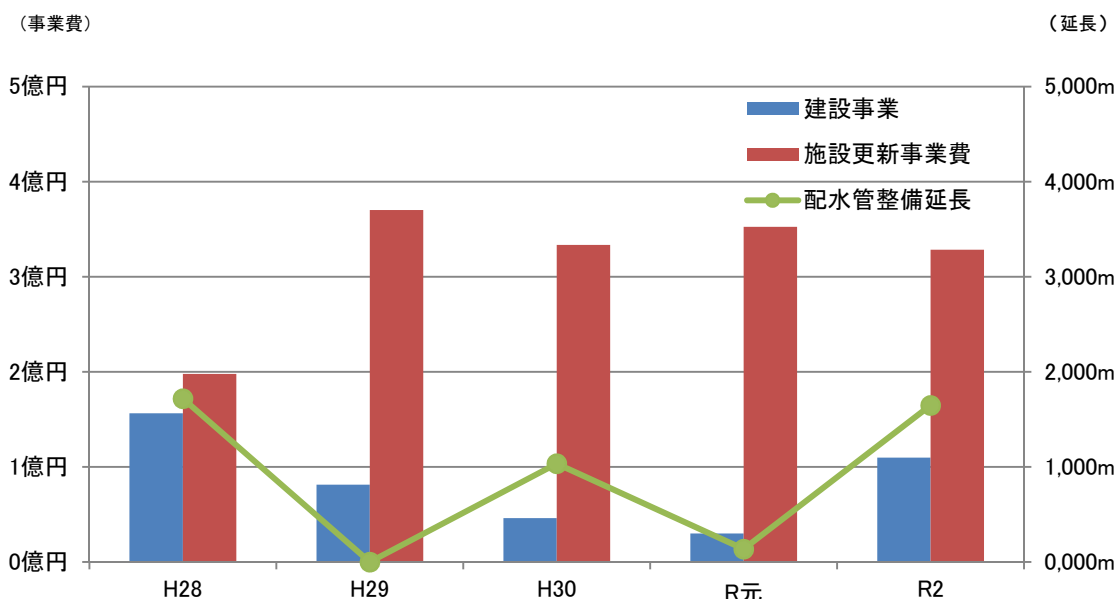
## 2 主要な建設事業

## 水道事業

令和2年度の建設事業費は1億1,000万円で、対前年度8,000万円の増となりました。

令和2年度の施設更新事業費は3億2,800万円で、対前年度2,500万円の減となりました。

建設事業費、施設更新事業費及び配水管整備延長の推移



### 建設事業

建設事業では、宅地開発に伴う人口増加と一部区域の拡張による水需要の増加に対応するため、配水管の布設工事を行っています。

令和2年度は、駒場第1・2低区配水池改修事業による排水管布設工事や道の駅整備関連事業に伴う配水管布設工事などを行いました。

### 施設更新事業

施設更新事業では、主に老朽化した既設水道管の更新工事を行っています。

水道管の法定耐用年数は40年ですが、町が毎年実施している宅内道路の再整備箇所には、道路工事に併せて更新を行うことにより経費を抑制できるため、道路整備の担当課と連携して更新工事を実施しています。

### その他の事業

住宅の新築などにより、新たに給水を開始する場合の新規設置の量水器(水道メーター)購入を行っています。また、量水器の有効期限は計量法により8年と定められていることから、期限を迎える前に対象となる量水器の取替工事を行っています。

# 3 決算の状況

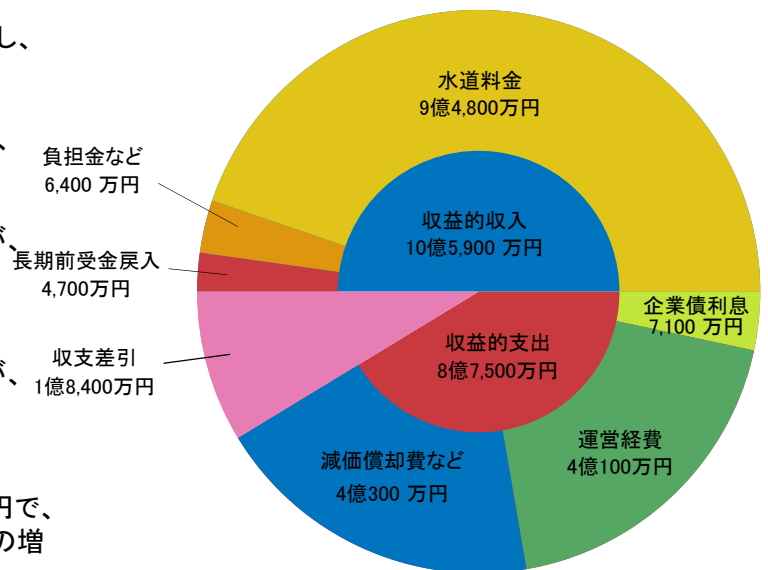
## 水道事業

令和2年度の給水収益は9億4,800万円で、対前年度1,000万円の増となりました。  
 令和2年度の純利益は1億3,600万円で、対前年度4,100万円の増となりました。

### 収益的収支

- 事業運営の結果、収入額10億5,900万円に対し、支出額は8億7,500万円となりました。
- 給水収益(水道料金)は、9億4,800万円となり、収入のおよそ9割を占めています。
- 収入は対前年度1,200万円の増となりましたが、その主な理由は給水収益などの増によるものです。
- 支出は対前年度3,800万円の減となりましたが、その主な理由は受水費や減価償却費などの減によるものです。
- この結果、収益的収支の差引は1億8,400万円で、消費税調整後の純利益は対前年度4,100万円の増で、1億3,600万円となりました。

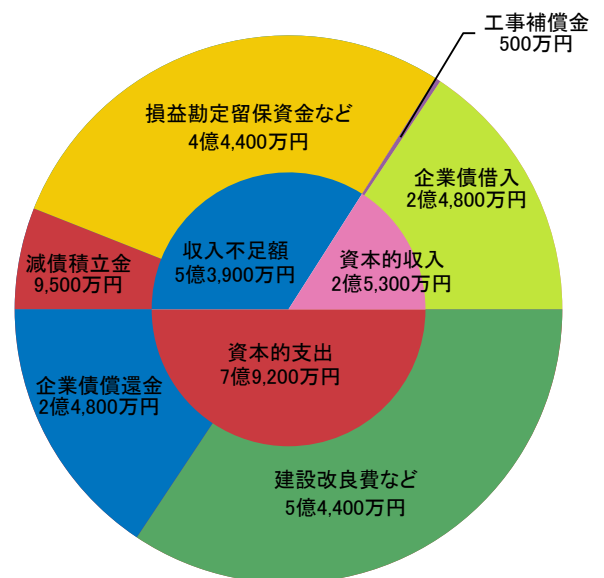
### 収益的収支の内訳



### 資本的収支

- 建設改良費は、建設事業費や量水器整備事業費の増により、対前年度5,700万円の増となりました。
- 企業債償還金は、平成18年に借り入れた借換債の償還が終了したことにより、対前年度800万円の減となりました。
- 資本的収支における収入不足額5億3,900万円については、減債積立金や損益勘定留保資金など、収益的収支から発生した財源で補っています。

### 資本的収支の内訳

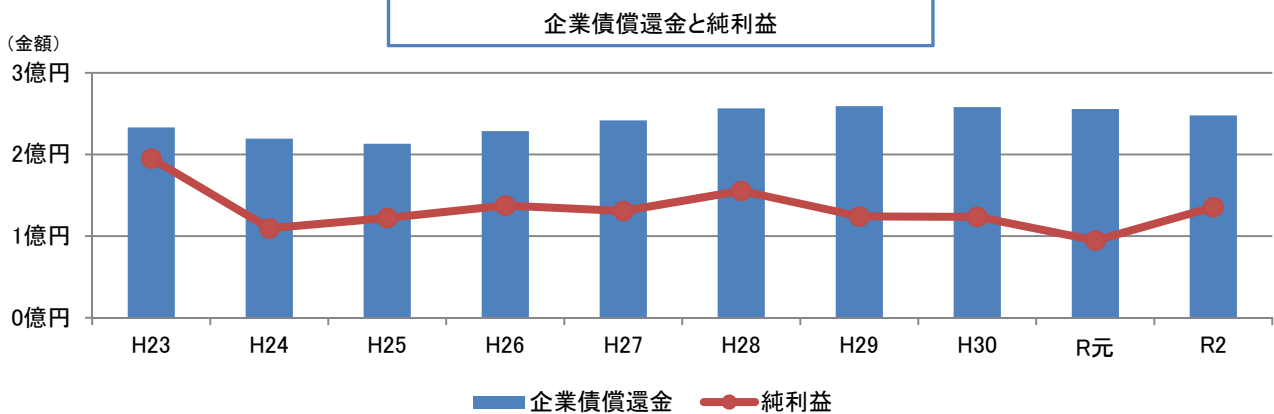


## 4 損益の状況

水道事業

令和2年度の純利益は1億3,600万円で、対前年度4,100万円の増となりました。

純利益は全て「減債積立金」に積み立て、企業債の償還財源とします。



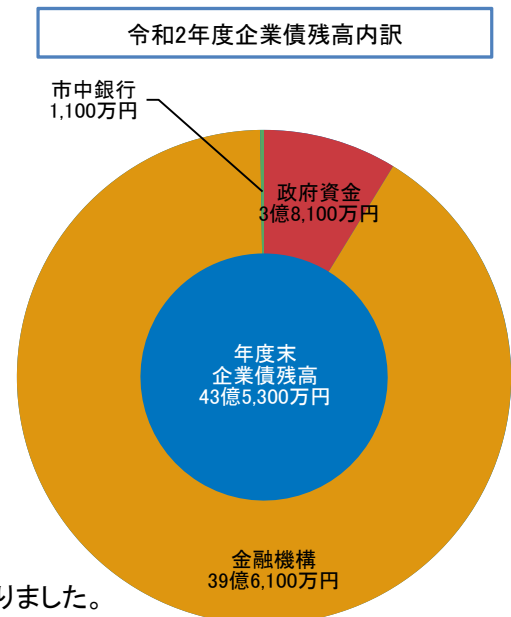
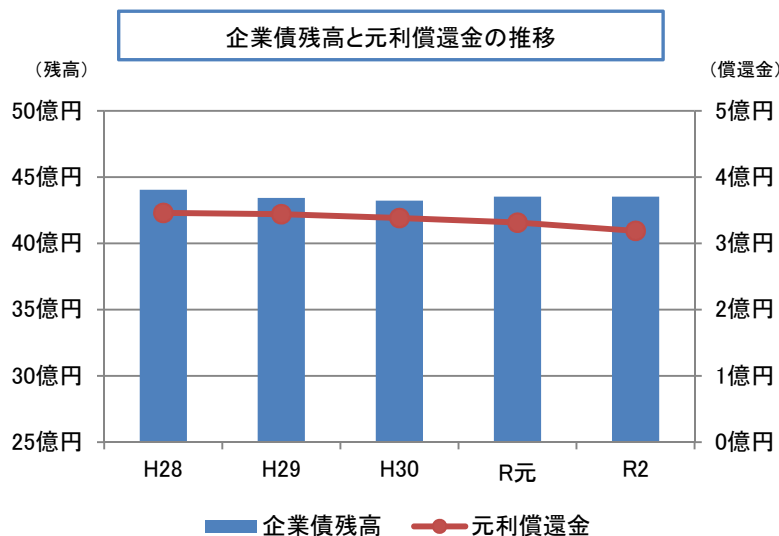
- 直近の10年間は毎年度1億～2億円の純利益を計上していますが、水道事業では資本的収支における収入不足を補うため、全て翌年度の企業債の償還に充てています。

## 5 企業債残高と元利償還金の推移

水道事業

令和2年度の企業債残高は43億5,300万円で、対前年度100万円の増となりました。

令和2年度の元利償還金は3億1,900万円で、対前年度1,200万円の減となりました。



- 企業債残高は、平成24年度以降減少傾向にありましたが、建設事業の増加により、令和2年度は借入額が償還額を上回りました。
- 今後は施設の更新事業が中心となるため、内部留保資金などを活用することで借入を抑制し、経営上大きなウェイトを占める元利償還金を減らしていこうと考えています。

# 6 料金の収納状況

## 水道事業

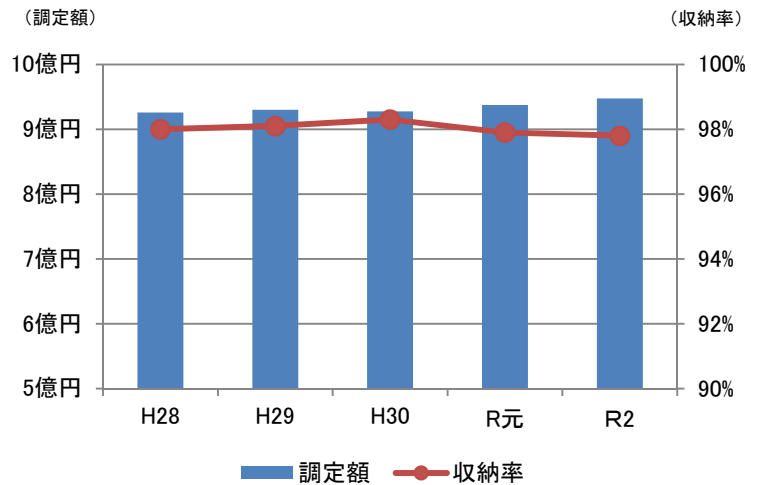
令和2年度の水道料金調定額は9億4,800万円で、対前年度1,000万円の増となりました。

令和2年度の収納率は97.8%で、対前年度0.1ポイントの減となりました。

- 水道料金の令和2年度現年度調定額は9億4,800万円で、収納額は9億2,700万円となりました。
- 令和元年10月の消費税率改定による料金改定及び緊急事態宣言に伴う巣ごもり等により、調定額は対前年度1,000万円の増となりました。
- 令和2年度現年度調定分及び過年度調定分の合計の収納率は97.8%で、現年度分みの収納率も97.8%となりました。

※ 調定額とは、料金の請求額のことです。

料金の調定額と収納率の推移



### 滞納への対応

#### 滞納者への対応の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
徴収員の訪問	8,885回	9,283回	8,334回
停水予告送付	582件	673件	501件
停水通告送付	409件	412件	319件
停水実施	120件	68件	64件

#### 徴収員による徴収状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
金額	4,197,580円	4,443,672円	3,909,324円

### 不納欠損

	居所不明	徴収不能	法人の倒産・破産	本人死亡	合計
人数	6人	7人	2人	1人	16人
件数	23件	23件	4件	1件	51件
金額	31,804円	29,029円	11,018円	1,172円	73,023円

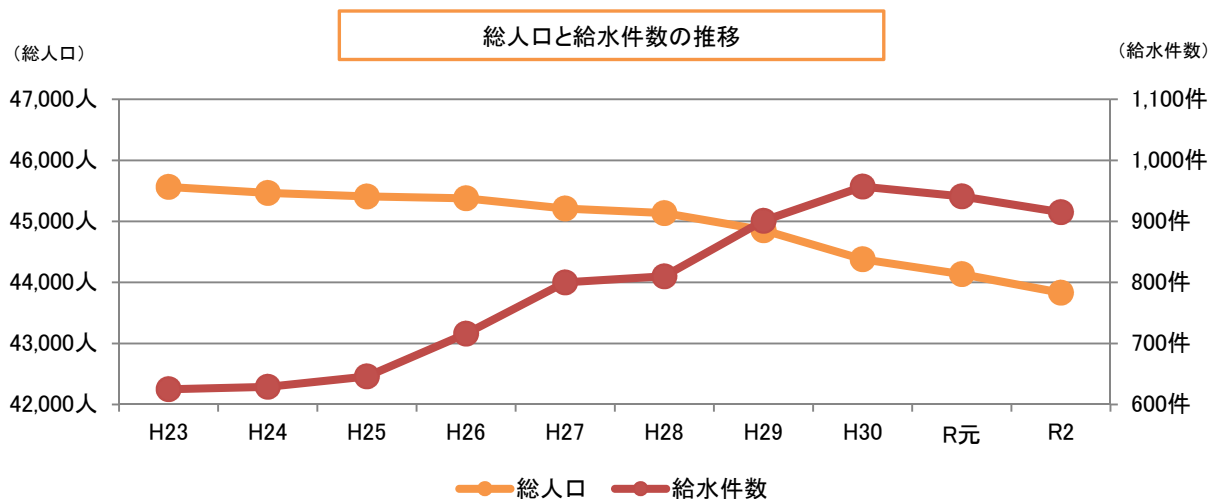
# 1 業務の概要

## 簡易水道事業

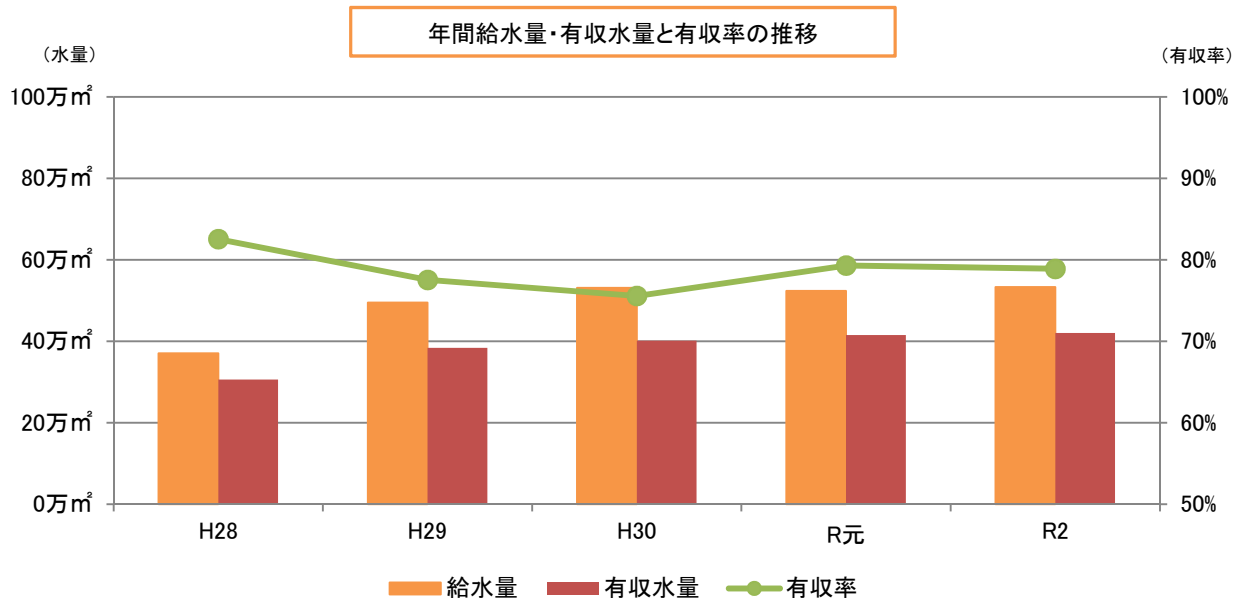
令和2年度末の給水件数は915件で、対前年度26件の減となりました。

令和2年度の年間総給水量は53万m<sup>3</sup>で、有収水量は42万m<sup>3</sup>でした。

給水の効率性を示す有収率は78.9%で、対前年度0.4ポイントの減となりました。



- 町の総人口は、平成22年の45,600人をピークに減少傾向にあり、給水件数は平成30年をピークに減少傾向にあります。



- 給水量とは、浄水場から送り出された水量のことです。
- 有収水量とは、料金算定の対象となった水量のことです。
- 管路老朽化に伴う漏水により、有収率は対前年度0.4ポイントの減となっています。

## 2 主要な建設事業

## 簡易水道事業

### 建設事業

長流枝南地区の飲料水については、井戸水・沢水等により生活用水を確保していますが、近年、基準値を上回る水質悪化が進んでいることから、早急な水対策が求められており、こうした地域の現状を解消する為、令和2年度では配水管布設工事を行い水道施設を整備しました。

### 施設更新事業

#### 工事

施設更新事業の工事は、主に既存施設の統廃合を含めた老朽化対策等を行っています。

西部簡易水道(北地区)は、昭和40年代初頭から昭和50年代にかけて、国営開墾建設事業及び道営農用水事業で整備された水道により飲料水を確保してきましたが、老朽化により漏水が発生し、必要な水量確保が困難な状況にあることから、平成25年度から更新事業を実施して、管路更新により水道の安定供給が確保されました。令和2年度では、更新優先のために遅れていた廃止管の撤去工事を行いました。

豊田地区については、浄水場が平成13年から共用開始し、稼働から19年が経過しており、令和2年度では、生産中止で部品の供給を終了している情報伝送装置(モデム)の更新工事を行いました。また、同地域で実施されている道営明渠排水事業により支障となる既存配水管移設工事も行いました。

#### 負担金

施設更新事業では、道営事業「美蔓高倉第2地区」の負担金を支払っています。事業期間は、平成30年度から令和8年度、総事業費は約23億円と予定されています。平成30年度と令和元年度調査測量設計を実施し、令和2年度より本格的な工事が開始されています。

経緯・・・簡易水道には現在9つの浄水場があり、そのうち上然別、高倉地域を給水区域としたハギノ地区、万年、鎮鍊地域を給水区域とした万年地区があります。ハギノ地区の浄水場については昭和52年築造時から43年が経過した施設であるため、コンクリート構造体としての法定耐用年数60年まではまだ半ば過ぎですが、老朽化がかなり進行している状態です。また、ハギノ地区の管路については、昭和51年築造時から44年が経過し、法定耐用年数40年を超えた管路が大半であり、そのうち配水管として使用している塩ビ管からの漏水が近年定期的に発生し、応急的な修繕を実施していました。

一方、万年地区の浄水場や管路施設については、平成8年築造時から24年ほど経過していますが、建物自体はさほど老朽した状態ではなく、管路についても漏水の発生もありませんが、浄水場の機器類に関しては一般的な法定耐用年数の15年を過ぎており順次更新が必要な状態です。また、地理的に近接しているハギノ・万年の両給水区域において、2つの浄水場を稼働して配水しているため、維持管理上、非経済・非効率な状態であることが課題となっていました。

以上のような現状から平成26年度に両施設の更新方針を検討した結果、老朽化したハギノ浄水場を廃止して新浄水場を建設し、その新浄水場から万年浄水場への送水管を整備して万年浄水場の浄水機能を廃止し、配水池機能だけを残す施設統合(ダウンサイジング)を実施する事になりました。また法定耐用年数を経過しているハギノ地区の管路についても更新する事になりました。

事業の財源については、簡易水道の収入だけで賄うことは不可能であり、また採択条件に合致する国庫補助事業も存在しない事から、事業費の20%を負担することで整備可能な道営土地改良事業として、平成28年度に北海道に施工申請し、「美蔓高倉第2地区」として採択されました。

### その他の事業

住宅の新築などにより、新たに給水を開始する場合の新規設置の量水器(水道メーター)購入を行っています。また、量水器の有効期限は計量法により8年と定められていることから、期限を迎える前に対象となる量水器の取替工事を行っています。



# 3 決算の状況

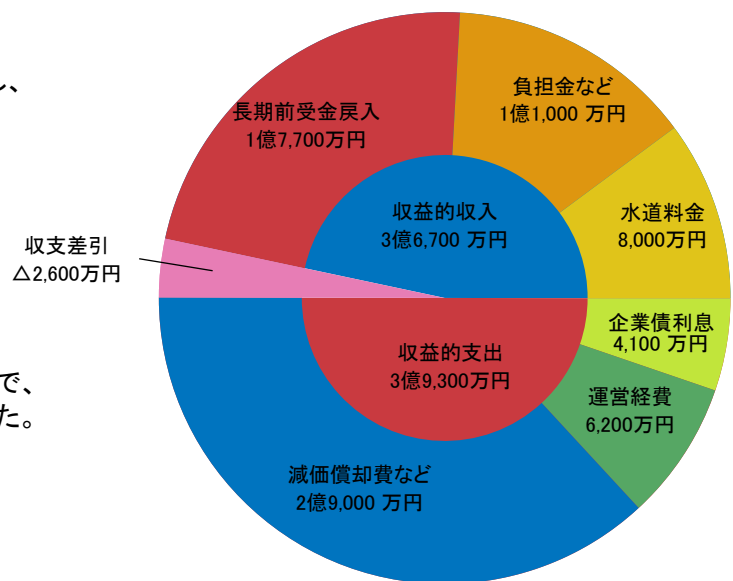
## 簡易水道事業

令和2年度の給水収益は8,000万円で、対前年度200万円の増となりました。  
 令和2年度の純損失は3,700万円となりました。

### 収益的収支

- 事業運営の結果、収入額3億6,700万円に対し、支出額は3億9,300万円となりました。
- 長期前受金戻入は、1億7,700万円となり、収入のおよそ5割を占めています。
- 減価償却費などは、2億9,000万円となり、支出のおよそ7割を占めています。
- この結果、収益的収支の差引は△2,600万円で、消費税調整後の純損失は3,700万円となりました。

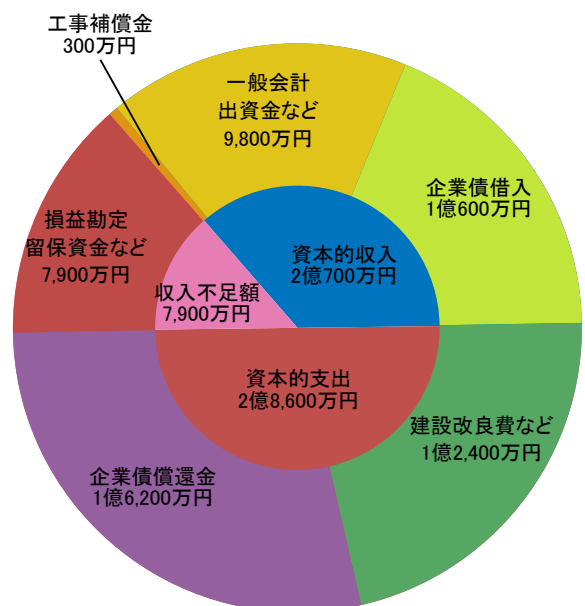
### 収益的収支の内訳



### 資本的収支

- 資本的収入は2億700万円、資本的支出は2億8,600万円となりました。
- 企業債借入は、1億600万円となり、収入のおよそ5割を占めています。
- 企業債償還金は、1億6,200万円となり、支出のおよそ6割を占めています。
- 資本的収支における収入不足額7,900万円については、引継金や損益勘定留保資金などで補っています。

### 資本的収支の内訳



## 4 損益の状況

## 簡易水道事業

令和2年度の純損失は3,700万円となりました。

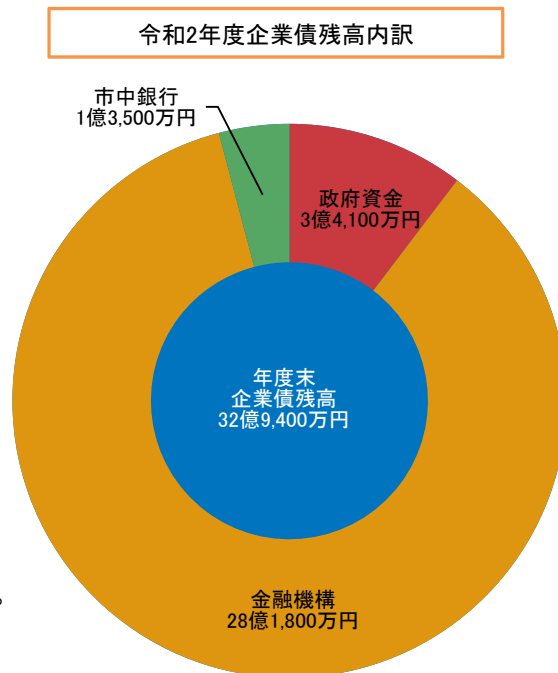
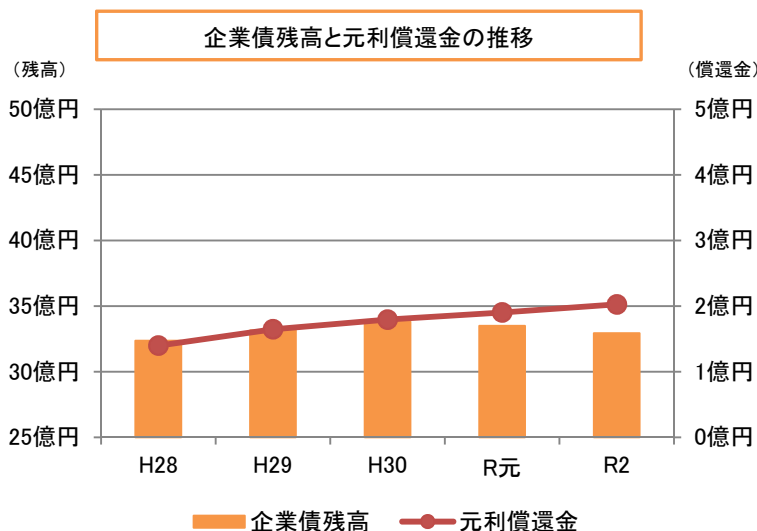
当年度未処理欠損金は、2億4,300万円となりました。

- 損益の状況については、維持管理費や減価償却費などに見合うだけの料金収入がないため、現金収支不足を補うための町からの補助金を受け入れても、純損失が発生しました。
- 簡易水道事業は、水道事業と同等の施設規模を有していながら、給水人口が水道事業の6%程度と少ないため、事業効率が極端に悪く、現行の料金収入だけでは、施設の維持管理費や整備費を賄うことが困難であり、資金不足が発生する経営状態となっています。

## 5 企業債残高と元利償還金の推移 簡易水道事業

令和2年度の企業債残高は32億9,400万円で、対前年度5,600万円の減となりました。

令和2年度の元利償還金は2億300万円で、対前年度1,300万円の増となりました。



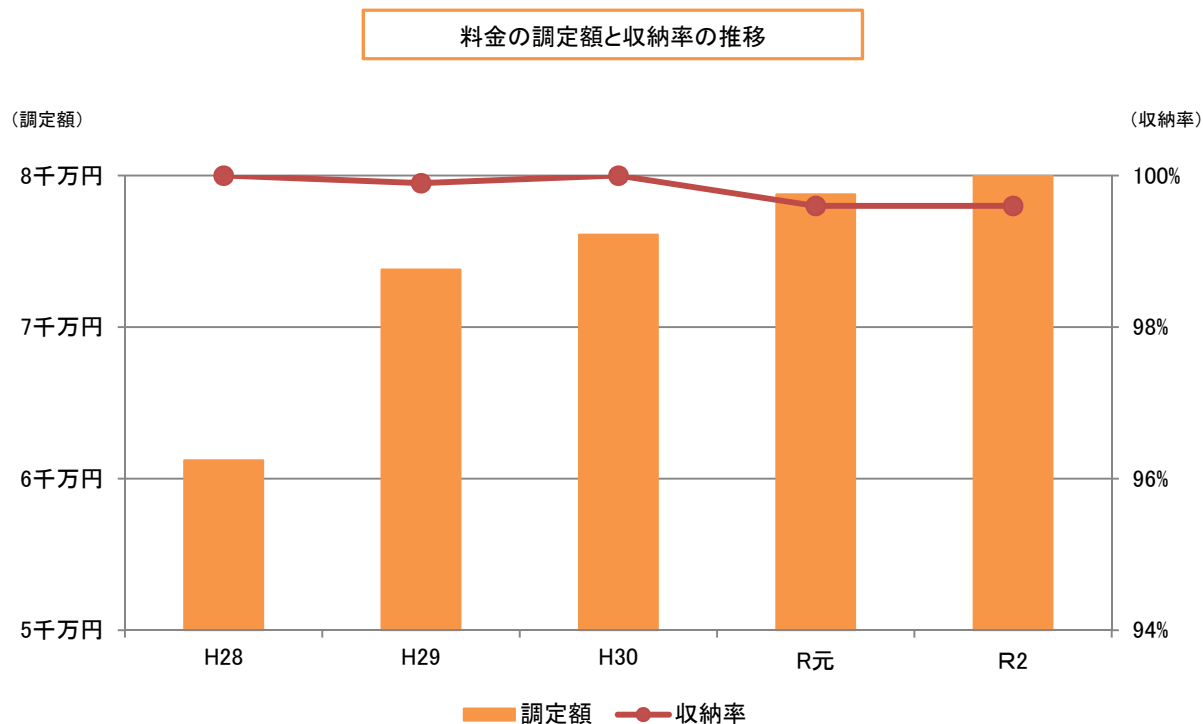
- 企業債残高は、平成30年度をピークに減少傾向にあります。

## 6 料金の収納状況

## 簡易水道事業

令和2年度の簡易水道料金調定額は8,100万円で、対前年度200万円の増となりました。

令和2年度の収納率は99.6%で、前年度同等となりました。



- 簡易水道料金の令和2年度現年度調定額は8,100万円、収納額は8,000万円となりました。
- 令和元年10月の消費税率改定による料金改定及び令和2年10月の用途別から口径別への料金改定より、調定額は対前年度200万円の増となりました。
- 令和2年度現年度調定分及び過年度調定分の合計の収納率は99.6%で、現年度分のみの収納率も99.6%となっています。

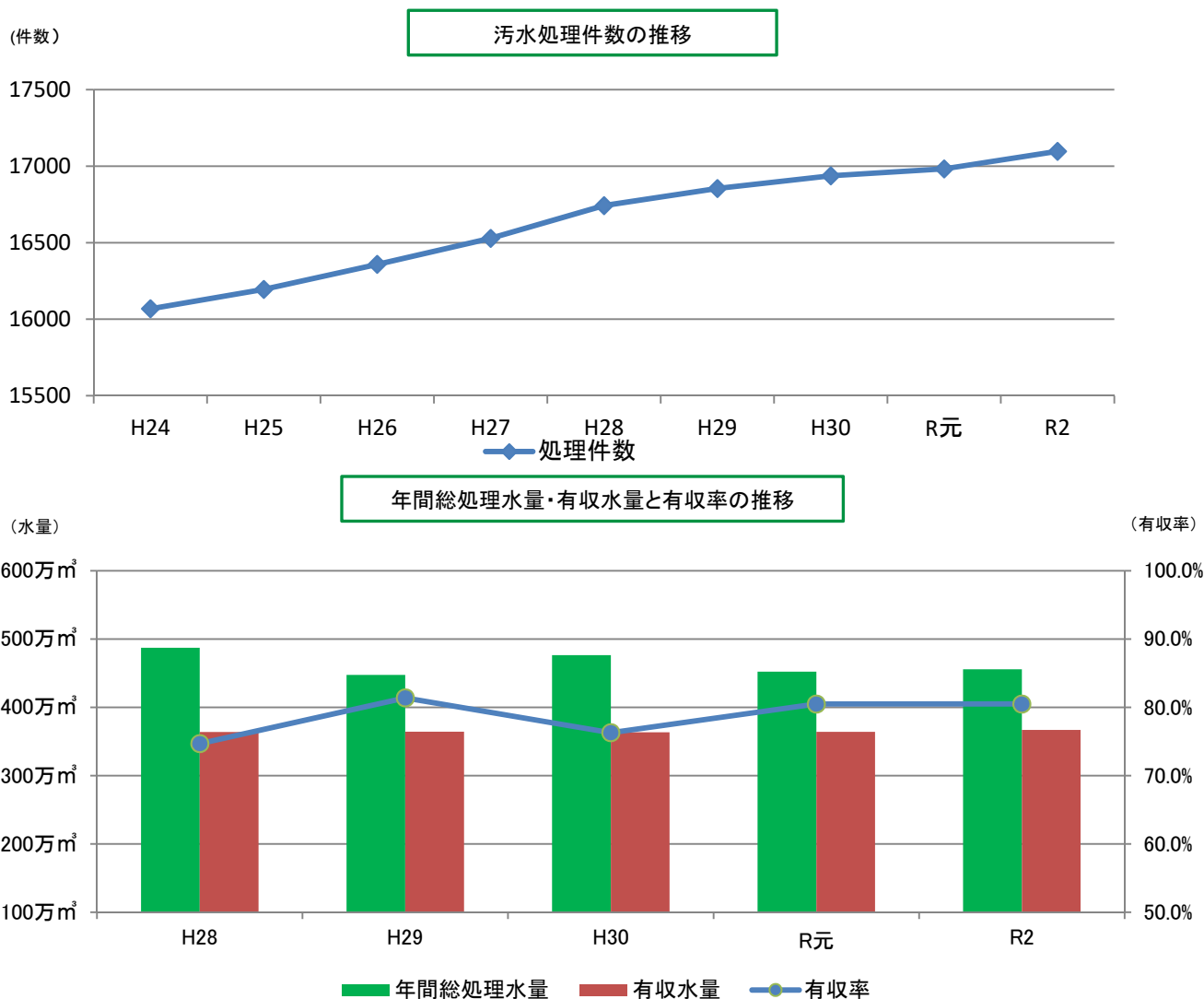
# 1 業務の概要

## 下水道事業

令和2年度末の汚水処理件数は1万7,097件で、対前年度115件の増となりました。

令和2年度の年間総処理水量は456万 $\text{m}^3$ で、有収水量は367万 $\text{m}^3$ でした。

汚水処理の効率性を示す有収率は80.5%で、前年度同等となりました。

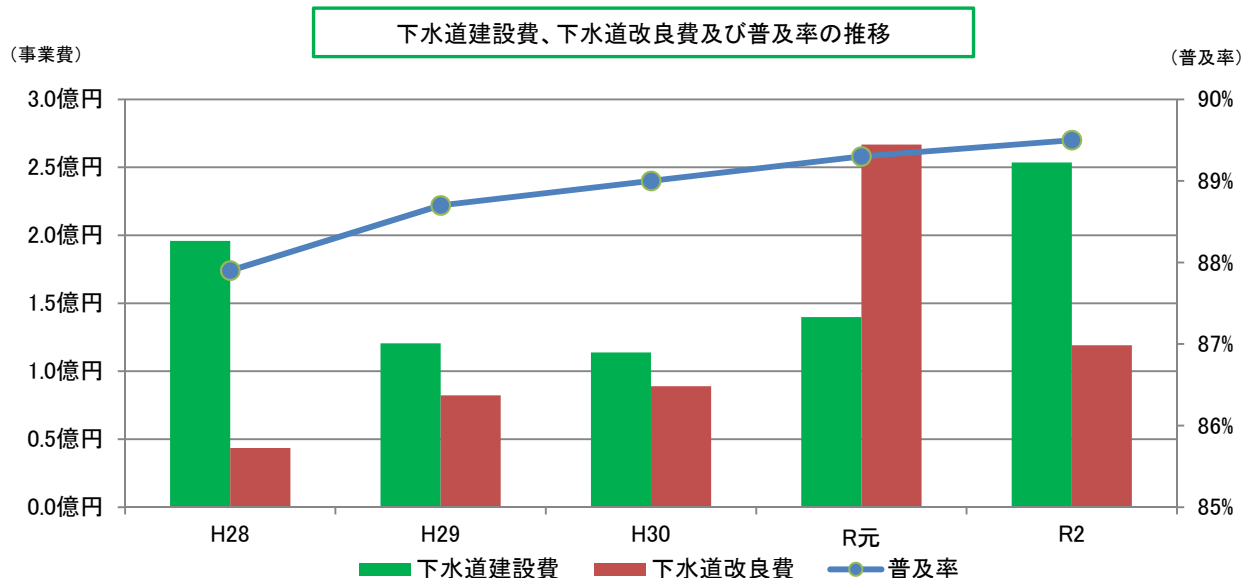


- 処理水量とは、汚水処理場に流入した水量のことです。
- 有収水量とは、使用料算定の対象となった水量のことです。
- 令和2年度は、雨水や地下水などの不明水が増加したため、年間総処理水量が対前年度3万 $\text{m}^3$ の増となりました。汚水処理の効率性を示す有収率は前年度同等となりました。

## 2 主要な建設事業

## 下水道事業

令和2年度の下水道建設費は2億5,400万円で、対前年度1億1,400万円の増となりました。  
下水道改良費は1億1,900万円で、対前年度1億4,800万円の減となりました。



### 下水道建設費

- 下水道建設費では、処理区域の拡大に伴う下水道管の布設を中心に、処理施設の新設などを行っています。
- 令和2年度は、開進地区や音更中央通の公共下水道工事などを行いました。

### 下水道改良費

- 下水道改良費では、老朽管の更生事業など、既存施設の更新を行っています。
- 令和2年度は、国道241号污水管更新工事や音更中央通污水管移設工事などを行いました。

#### ◆なぜ下水道管の更生工事が必要なの？

埋設されている下水道管は、経年劣化による老朽化や、地震といった災害などによる漏水や破損といった問題を抱えています。

そのままにしてしまうことで、下水管が詰まって下水が逆流したり、破損によって下水が地上に吹き出したり、地下に浸透して地下水を汚染してしまうなど、大きな問題が起きてしまいます。

また、下水道管に穴があき地下水が流れ込んでしまえば、下水処理場の処理能力を超える恐れもあります。

# 3 決算の状況

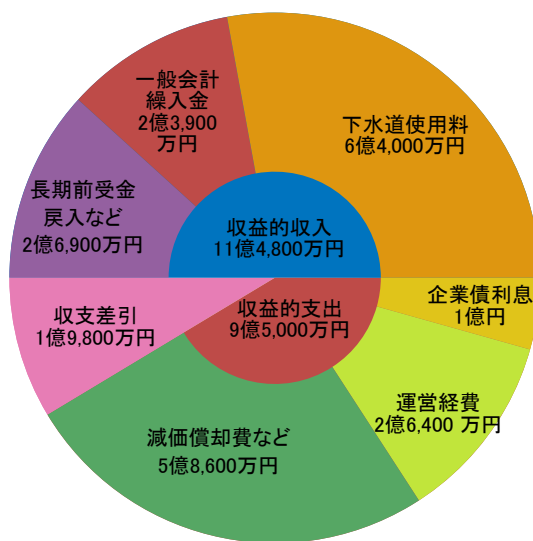
## 下水道事業

令和2年度の使用料収入は6億4,000万円で、対前年度900万円の増となりました。  
令和2年度の純利益は1億7,600万円で、対前年度800万円の減となりました。

### 収益的収支

- 事業運営の結果、収入額11億4,800万円に対し、支出額は9億5,000万円となりました。
- 使用料収入は6億4,000万円となり、収入の6割を占めています。そのほか、一般会計から負担金及び補助金として2億3,900万円を繰り入れています。
- 収入額は対前年度1,900万円の減となりましたが、その主な理由は、一般会計繰入金の減です。
- この結果、収益的収支の差引は1億9,800万円で、消費税調整後の純利益は対前年度800万円減の1億7,600万円となりました。

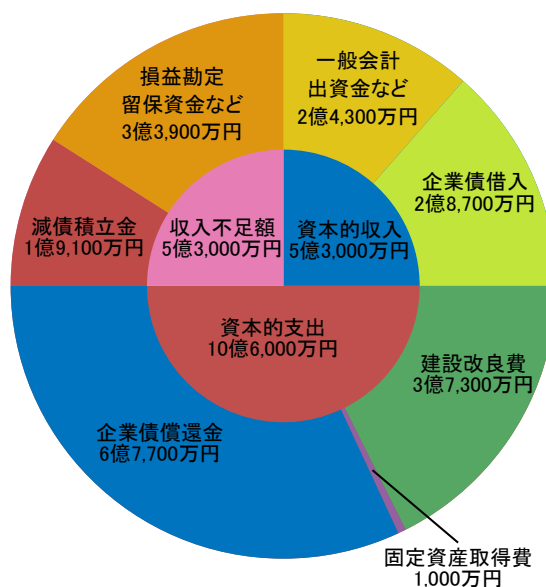
### 収益的収支の内訳



### 資本的収支

- 建設改良費は、下水道建設費が1億1,400万円増加、下水道改良費が1億4,800万円減少したことで、支出は前年度から6,400万円減少しました。
- 企業債償還金は、対前年度1,400万円の減となりました。供用開始から30年余りが経過し、供用開始時期に借り入れた企業債の償還が終了し始めたことで、減少傾向となっています。
- 資本的収入における収入不足額5億3,000万円については、減債積立金や損益勘定留保資金など、収益的収支から発生した財源で補っています。

### 資本的収支の内訳

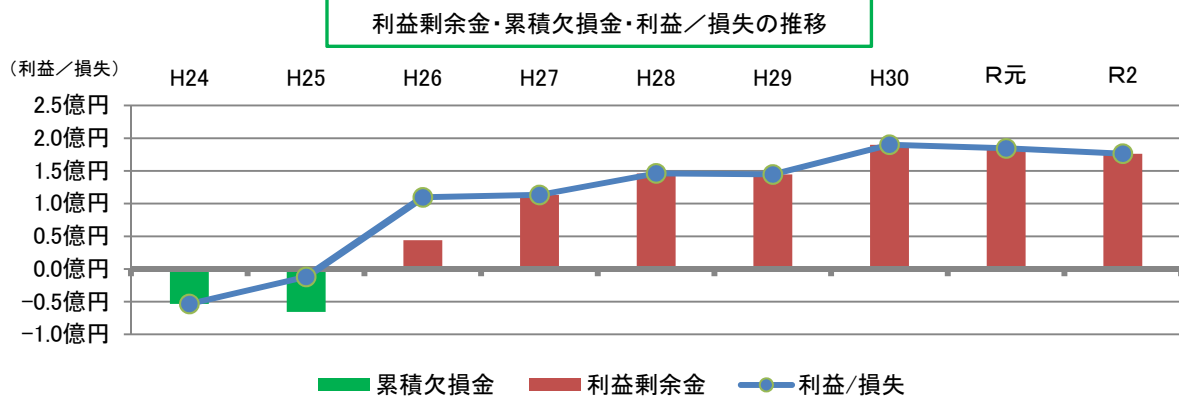


## 4 損益の状況

下水道事業

令和2年度の純利益は1億7,600万円で、対前年度800万円の減となりました。

純利益は全て「減債積立金」に積み立て、企業債の償還財源とします。



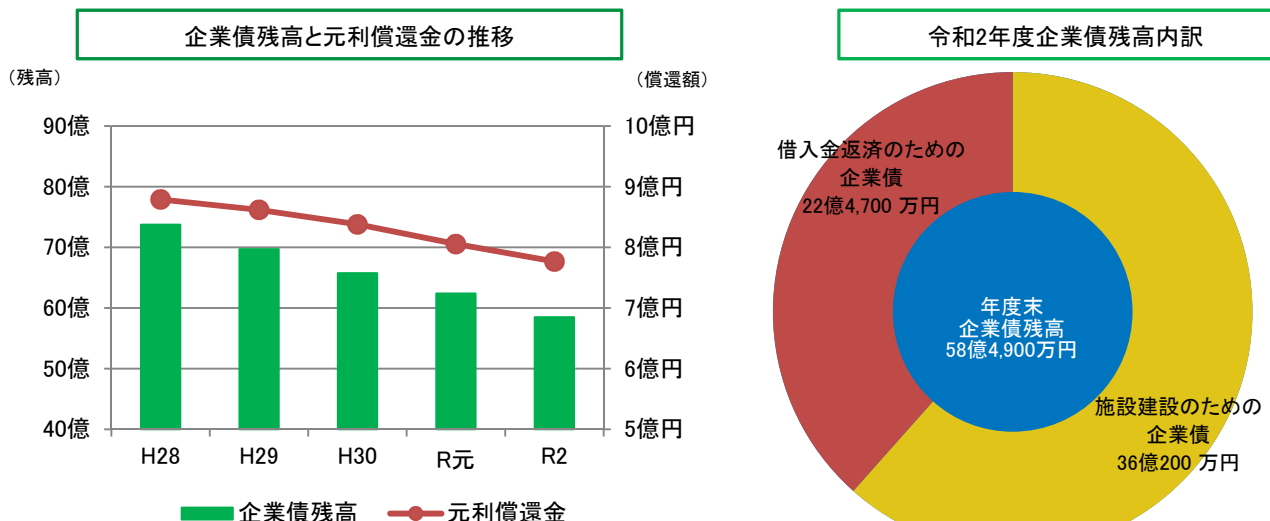
- 下水道事業は、平成24年度に町の特別会計から企業会計に移行しました。平成26年度に純利益を計上して以降、利益剰余金は資本的収支における収入不足を補うため、ほぼ全てを当年度の企業債の償還に充てています。

## 5 企業債残高と元利償還金の推移

下水道事業

令和2年度の企業債残高は58億4,900万円で、対前年度3億9,000万円の減となりました。

令和2年度の元利償還金は7億7,700万円で、対前年度2,900万円の減となりました。



- 令和2年度末の企業債残高は、対前年度3億9,000万円減の58億4,900万円となり、そのうち資本費平準化債など借入金を返済するための企業債が22億4,700万円を占めています。

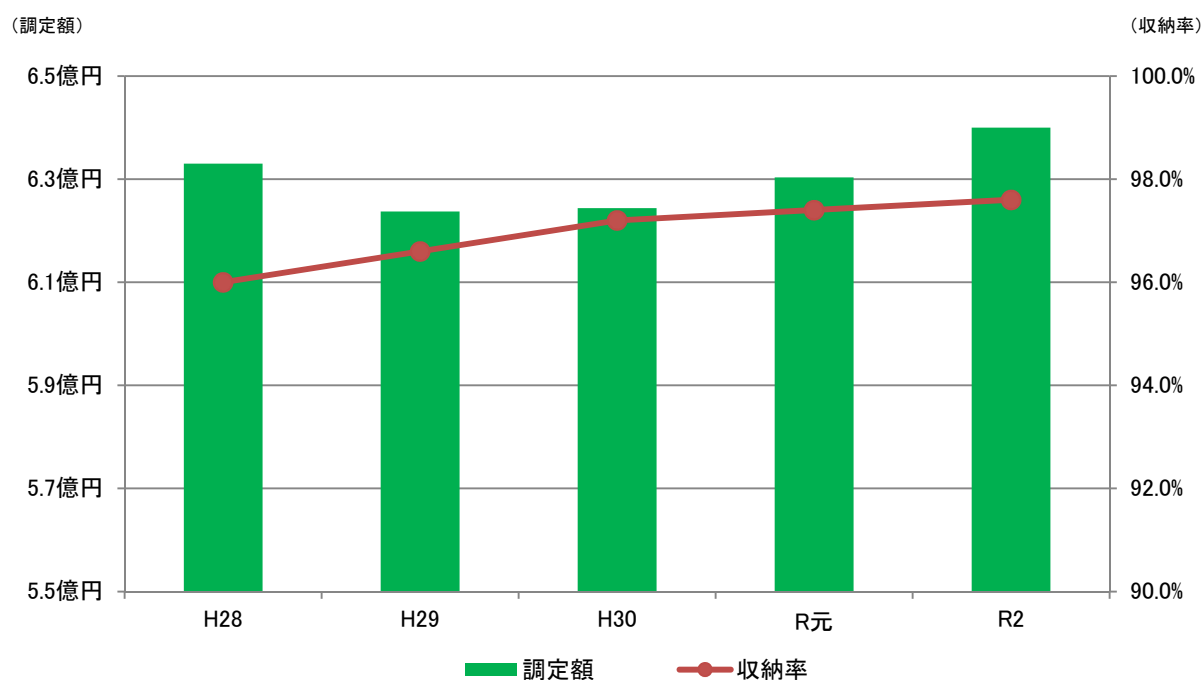
## 6 使用料の収納状況

## 下水道事業

令和2年度の下水道使用料調定額は6億4,000万円で、対前年度1,000万円の増となりました。

令和2年度の収納率は97.6%で、対前年度0.2ポイントの増となりました。

料金の調定額と収納率の推移



- 下水道使用料の令和2年度現年度調定額は6億4,000万円、収納額は6億2,600万円となりました。
- 令和2年度現年度調定分及び過年度調定分の合計の収納率は97.6%で、現年度分のみの収納率は97.9%となっています。

### ◆ なぜ水道料金と下水道使用料の呼び名は違うの？

水道は「料金」、下水道は「使用料」と呼び名が違うのには意味があります。

水道は給水サービスの提供を受けた対価として支払う「料金」、下水道は下水道施設を使っていることで支払う「使用料」という意味です。